研究課題　九州所在中世禅宗関係史料の調査・研究

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　榎本渉（国際日本文化研究センター）

　所内共同研究者　川本慎自・小瀬玄士

　所外共同研究者　藤田励夫（文化庁）・佐藤健治（文化庁）・岡村一幸（文化庁）

研究の概要

（１）課題の概要

　九州は大陸との地理的な関係もあって、多くの禅宗古刹が残されており、中世史料を始めとする貴重な史料を所蔵するところも少なくない。本研究においては、こうした九州に所在する禅宗関係史料を調査・撮影し、そのデジタル化を推進することで研究の進展に寄与することを図るものである。昨今のコロナ禍により、残念ながら頻繁な現地調査は難しさの度を増しており、史料の高度なデジタル化による閲覧の便宜性向上は喫緊の課題である。なお禅宗史料においては、古文書だけではなく、行状や語録といった禅僧個人の記録、僧伝も多く作成されているが、こうした史料については史料編纂所においても、十分に撮影データが揃えられていない実情もある。古文書にとどまらない中世禅宗関係史料を広く採訪し、デジタル撮影による研究資源化を実現し、研究の進展に寄与したい。

（２）研究の成果

　新型コロナウィルス感染症の影響により、当初の計画から変更を余儀なくされる部分もあったが、鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵史料の調査・撮影、および大慈寺所蔵史料の調査・撮影を実施することができた。黎明館においては、文之玄昌関係史料や、島津家関係禅宗寺院史料の調査・撮影を行った。また大慈寺においては、同寺所蔵史料について、撮影のみならず、共同研究員の知見を踏まえた総合的な目録作成を行った。その結果、南北朝期に大慈寺開山となった玉山玄提関係史料や、その弟子で、東福寺に大蔵経を納入した剛中玄柔関係史料をはじめとして、同寺に伝わる貴重な史料のデジタル画像データと詳細な目録を作成することができた。なかでも剛中が将来した大蔵経の一部とみられる宋版大般若経や元版大般若経について詳細なデータが得られたほか、文書についても料紙をはじめとして、原本からしか得られないデータを、共同研究員の知見によって得ることができた。